

公羽英作戦

自昭昭和十四年十一月十九日
至昭和十五年一月十三日

2091

本作戦ハ師團今日迄ニ於ケル最モ規模ノ大ナル作戦ニシテ夏季作戦直後之ガ準備ニ着手シ特ニ訓練ニ最善ヲ盡シアリシガ十月中旬末軍命令ニヨリ主カノ作戦開始ニ先立チ師團ノ一部ヲ先遣シテ粵漢線開拓作業ヲ掩護スベキ任務ヲ受ケ十一月二十日先ヅ旅團長ノ指揮スル歩兵四大隊 騎兵一大隊 山砲ニ大隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ編成シテ粵漢線ニ沿ヒ北上シ鐵道聯隊ノ粵漢線開拓作業ヲ掩護シ且師團爾後ノ作戦ノ爲前進據點ヲ占有セシメタリ次デ該支隊ガ逐次當面ノ敵ノ抵抗ヲ破摧シツツ獅嶺圩 銀盞坳ヲ經テ源潭墟附近ニ進出スルヤ偶ニ敵ノ冬季攻勢ニ遭遇シ第一五七師 第一五八師 第一八七師主カノ攻撃ヲ受ケシガ獨力之ヲ擊

破シテ十二月二十三日泡江南岸ニ進出セリ

此ノ間師團主力ハ右支隊ノ北進ニ伴ヒ逐次兵力ヲ推進北上シ師團
長亦十二月二十日廣東北郊ヲ出發シ先遣支隊並ニ主力部隊ノ戰
鬪ヲ指導シツツ逐次戰鬪司令所ヲ推進シ十二月二十四日泡江河畔ノ敵ヲ
撃破シテ同河ヲ強行渡河シ全兵力ヲ泡江北方地區ニ集結ス

次デ十二月二十七日泡江合流點附近ニ於テ北江ノ敵前渡河ヲ敢行シ引
續キ同方面ノ敵陣地ヲ突破シテ英徳ニ向ヒ敗敵ヲ追撃テ十二月三十日
同地ヲ占領セリ

此ノ間別ニ聯隊長ノ指揮スル歩兵ニ大隊砲兵ニ大隊追撃手ニ大隊工
兵ニ中隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ以テ横石附近敵主陣地ノ背後ヨリ

182

2093

再度北江ヲ敵ノ頑強ナル抵抗ヲ破摧シツツ強行渡河セシメ沱江北
岸ノ堅固ナル既設陣地ニ殘據セル敵ヲ腹背ヨリ挾撃之ヲ潰滅セ
シメタル後主力ヲ以テ粵漢線ヲ一部ヲ以テ北江ヲ溯航シツツ英德ニ
前進セシム

次デ師團ハ英德攻略後廣東北郊原駐地ニ歸還スベキ軍命令
ニ接シ一月三日英德出發再ビ北江ニ沿ヒ南下ニ先立チ一部ヲ以テ清遠
ヲ攻略セシメ續イテ四會縣方面ヨリ北江ヲ越エテ我背後ニ進入シ來
リシ第三十五集團ノニヶ師ヲ國泰圩附近ニ於テ撃破シ一月十三日師
團主力ヲ以テ原駐地ニ歸還セリ

將來參考トナルベキ事項

一 作戰準備、周到適確ヲ要スル事ニ就テ

本作戰ハ相當長期ニ亘リ而モ敵情地形ハ極メテ困難ナリシモノアリシ
ニ拘ラズ其ノ作戰經過上ニ於テ大ナル葦帶或ハ齟齬過失ノ見ルベキモ
ノナク寧ロ第一線兵團トシテ十分ナル戦力ヲ發揮シ常ニ積極進取ノ
行動ニ出スルノ自信ト餘祐ヲ有セシゴトハ其ノ原因一ニシテ足ラズト雖モ
實ニ上下ヲ通ジ作戰ノ重大性ト第一線ノ兵團トシテノ名譽ヲ自覺肝
銘シ其ノ準備ニ専心絶大ノ努力ヲ傾到シ將兵ノ涙クマシキ精進ヲ重
ネタルニ因ラズンバアラズ

此ノ種特設師團ノ運用上重要ナル教訓トシテ左ニ重ネテ之ヲ列擧スベシ

ノ 師團ノ面目發揮ニ關シ反復機會ヲ求メテ將兵ノ精神力ヲ振作シエ
下ノ和親團結ノ強化ニ努カスト共ニ過去ノ戰歴ヲ檢討シ將兵ノ信賞
必罰ヲ嚴正ニシ軍紀ヲ振肅シ且贅澤ナル地方生活ノ慣習是正ニ
努メタリ

又 編制裝備ノ改編特ニ輓馬編制ヲ馱馬編成トシ山地ノ行動ニ適應セシム
シ 山地訓練特ニ馱馬部隊ノ地形克服ノ爲師團ニ於テ計畫的ニ之ガ訓練ヲ
促進強行セシメタリ

又 作戰計畫ノ適切ヲ期ス爲參謀長以下幕僚其ノ他下級將校ニ至
ル迄機會ヲ求メテ飛行機ニ搭乗シ作戰地ノ空中偵察ヲ行ハシム
又 情報收集ノ爲凡有方策ヲ敢行シ特ニ敵ノ俘虜獲得文書ノ押收

ニ關シ將兵ノ努力注意ヲ倍徒セシメ重要ナル作戰資料ヲ事前ニ
獲得シ得テリ

6 北江ノ存在ヲ重視シ特定ノ部隊ヲ以テ溯江作戰ヲ演練シ自信ヲ得
シム

ニ指揮運用上ノ若干事項ニ就テ

本作戰ハ其ノ期間ニ於テ敵ノ兵力ニ於テ將又陣地ノ強度ニ於テ從來師
團ノ經驗セル各種作戰ニ比シ其ノ程度一段高ク戰鬥ノ衝ニ當リシ各部隊
ノ勞苦眞ニ大ナルモノアリ

而シテ其ノ戰歴ヲ檢討スルニ左ノ如キ特色ヲ有シ幾多進步向上ヲ要スベ
キ點ナシトセズ

師團ハ其ノ編成上中隊長以下ハ殆ンド召集將校ヨリ成ルヲ以テ大隊
長ハ識能ノ如何ハ實ニ大隊戦力ノ半ヲ左右セリト謂フモ過言ニアラス
又從ツテ本作戦間下級指揮官ノ戰術的獨斷、夜間攻撃ノ敢行、放膽
ナル挺進迂回行動等ノ實行ハ實ニ大隊長以上ノ上級指揮官ノ積極不
屈ノ意志ニヨリ發動セラレタルコト多ク又反面ニ於テ未ダ此種適切ナル
戰術的行動ノ見ルベキモノ少カリシハ各級指揮官ニシテ稍モスレバ狀況
ニ應ズル機眼ヲ欠キ變通自在ノ施策ニ出ズラ得ズ下級部隊ノ戰鬪
ノ推移ニ拘束セラレ或ハ千篇一律ノ形式ニ陷リシコトナキニアラザリシヤラ
想ハシム

師團ニ於ケル歩砲協同ノ特色ハ所謂多數砲兵ノ集中射撃ニ伴フ

步兵ノ突撃形態ニ據ルヲ得ズ即チ其ノ編制上ハ數砲兵ノ狙擊
的砲撃ニ膚接スル步兵ノ突撃ニ期待シ得タルノミ
戰歴ニ鑑ミ更ニ此ノ種訓練ノ精到ヲ期スベシ

4 戦力ノ重點使用ハ原則ノ明示スル所ナリト雖モ師團ハ其ノ戦力ノ實質ニ
深ク顧ミル所アリテ兵力ノ徹底集中使用ニ就テハ作戰計畫ノ當初
ヨリ全經過ヲ通ジ絶大ノ努力ヲ傾注シ強固ナル意志ヲ以テ之ガ實
現ヲ企圖シ必勝穿貫的威力ノ指向ニ於テ萬全ヲ期シ他ノ小刀細工
的施策ハ一切之ヲ廢シタリ

5 指揮ノ輕快性ヲ期スル爲指揮官位置ノ選定ニハ特ニ配慮スル所アリ
大隊長ハ殆ンド常ニ散兵線ニ進出スルヲ常態トシ師團司令部

モ亦否發ニ其ノ位置ヲ前方ニ移動スルニ努メタリ

6 本作戰地ハ地形險峻ニシテ作戰路ハ到ル處長隘路ヲ形成シ其ノ

指揮極メテ困難ヲ極メタリト雖モ各隊異常ノ努力ヲ以テ之ヲ跋涉
克服セリ

各隊ニ於テ特ニ著意實行シ且將來ニ於テモ更ニ訓練向上ヲ要スベキ
點尤ノ如シ

行軍路ノ偵察自隊ヲ以テスル道路ノ開拓改修(作業隊ノ編成強化ヲ
必要トス)

危害(人馬ノ墜落)防止出發時ニ於テ集合場及時間ノ配當休
宿地ノ配當、部隊ノ徒勞防止、後續部隊ニ對スル便宜ノ處置、馱馬

部隊ノ處置、行軍序列、行軍々紀ノ振肅等

ク搜索ニヨル情報ノ獲得ハ不十分ナリシヲ認メザルヲ得ズ

蓋シ飛行機ノ偵察ニ對スル依信、特殊情報ノ發達、兵力ノ愛惜、損害防止ノ思想等ニヨリ斥候其ノ他軍隊自隊ヲ以テスル搜索ヲ閑却シ積極的ニ之ヲ行ハザリシガ如シ

幸ニシテ敵ニ企圖心乏シク低劣ナルヲ以テ其ノ不十分ヨリ受クル危害大ナラズト雖モ之ヲ以テシテハ機宜ニ適スル戰鬥指導ハ困難ナリ

命令ノ作爲下達ノ要領ハ一層研究ヲ要スベキモノアリタリ

的確ニシテ積極的ナル命令、要旨(又ハ準備)命令、長期ニ亘リ獨斷ノ餘地十分ナル命令ヲ適用スベキ事ニ關シテ更ニ練磨ヲ要ス

190

2101

又命令受領者ニ適任者ヲ選拔シ置クノ必要大ナルモアリ
(北江渡河後ニ於ケル追撃ヲ發起及爾後ノ追撃ヲ指導 夜間ニ於ケル
各種命令ノ傳達等)

三 其ノ他若干ノ教訓

ノ馬ノ愛護ニ關シテハ事前相當ノ考慮ヲ促シタル所ナルモ地形ノ困難
馱鞍整備ノ多種類特ニ各級指揮官ノ馬匹ニ關スル知識 注意力ノ不
十分ナリシニ基因シ六百餘頭ノ鞍傷馬ヲ生ジ 戦後特ニ鞍傷豫防
研究委員ヲ編成シ眞劍ニ之ガ對策ヲ講グルノ必要ニ迫ラレタリ

二 支那側武裝團隊ノ利用

支那側武裝團隊(安民挺身隊約三百名)ノ利用ニ關シテハ師團六豫

191

テヨリ十分ナル研究工夫ヲ積ミ恩威併セ用ヒテ其ノ形而上下ニ於ケル
訓練ヲ徹底セシメ作戰間ハ敢然之ヲ情報ノ收集ニ挺進セシメ或ハ後方
ニ於ケル患者ノ護送糧秣ノ運搬ニ又時トシテ之ヲ戰線ニ伍セシムル等
晝夜兼行ノ活動ヲ行ハシメ作戰ニ偉大ナル貢獻ヲサシメタリ

蓋シ此種武裝團隊ノ使用ニ關シテハ其ノ人數ヲ限定シテ訓練ヲ精
到ナラシメ必ズ優秀ナル日本指導官ヲ附セシメテ適材ヲ適所ニ活動セ
シメ且日本軍ノ推進監督指導ノ下ニ活動セシムル等ノ着意ヲ必要トシ
全ク獨立セル行動(特ニ大ナル團隊)ニハ大ナル期待ヲカケ得ザルノミナラス
却ツテ有害ナルコトアルベキヲ信ゼザルベカラズ

3
工事ノ價値ニ就テ

師團ハ既往ノ戦歴ニ鑑ミ「停止セバ必ズ工事ヲ行ヒ其處ヲ墓場トセヨ
ノ標語ヲ以テ工事ノ必要ヲ高唱スル所アリシガ其ノ効果ハ西山支隊
ノ戦闘ニ於テ遺憾ナク發揮セラレ歩兵約五大隊ヲ以テ約二十軒ノ正
面ヲ占領確保シ敵ノ冬季攻勢ヲ撃退セリ

北江ノ價値ニ就テ

師團ハ北江同支流ノ存在ヨリ困難ナル渡河ヲ行フト六回ニ及ビ其ノ
中敵前渡河ニ度（泡江ノ渡河飯店附近及水綿頭附近北江渡河
）其他追撃等或ハ反轉間ニ於テ困難ナル渡河前進ヲ行ヒシト三度
（下歩圩附近連江ノ渡河 英德附近北江同支流ノ渡河清遠附近ノ反
轉渡河）ニ及ベリ

2104

而シテ此ノ間敵前渡河ニ於テハ周到ナル準備ニ萬全ヲ期シテ努力セルヲ
指摘シ得ベク其ノ他ノ渡河ハ狀況不明ノ裡ニ於テ所在民船現地諸
材料ノ取得利用ヲ命令シ(濱師作命甲第三三三號)之ヲ強行セシメタ
ルモノニシテ此ノ間ニ於ケル上級指揮官ノ強烈ナル意志ト第一線諸隊ノ
不屈ノ實行力安民挺身隊ノ活動等ヲ其ノ成功ノ素因トシテ指摘シ
得ベシ

而シテ北江ノ後方補給患者ノ後送等ニ寄與セル所大ニシテ檢峻ナル陸
路ニ據リテハ到底期シ得ザルノ價値ヲ發揮セリ

然レ共此間ニ於ケル舟艇ノ逆行民船ノ收集利用ニ就テハ晝夜兼行
ノ努力ヲ願注シタルヲ知ラザルベカラス

5

顧ミテ敵側ニ寄與スル北江ノ價值ハ正ニ絶大ナルベキヲ信ジ得タル所ニシテ
之ガ利用ノ計止破摧ニ就テハ將來ニ於テ大イニ着意スベキ要件タルベシ
作戰間ニ於ケル後方警備ニ就テ

師團ハ軍ノ兵站機關ノ推進セラレタル後ニ於テモ之ヲ包含スル遠大ノ
地域ニ亘リ其ノ後方警備ヲ擔任セシメラレタリ

獨立歩兵大隊ヲ配屬セラレタリト雖モ後方ニ對スル顧慮ハ作戰ノ終始
ニ亘リ相當ノ煩累ヲ及ボシ全般ノ作戰行動ヲ制約セラレタル點少カラズ

幸ニ師團ハ補充兵約四〇〇〇名來着途中ニアリシヲ以テ之ヲ後方
警備ニ充當シ其ノ守備ヲ強化シ得テ事無キヲ得タリト雖モ原則ノ

示ス如ク軍ニ於テ後方警備ヲ積極的ニ擔當スルノ必要ト其ノ妥

195

2106

當性ヲ信ゼザルヲ得ズ

6 通信機關ニ就テ

戦闘間断線頻發セリ其ノ原因ニシテ友軍ノ故意又ハ無意識ニヨル切斷多ク例ハ支柱ヲ新又擔棒ニ線ヲ梱包用ニ使用セルモノ既設線ヲ總テ敵側ノモノナリトシテ切斷セル等ノ如シ

又有線部隊ノ單獨延線(保線)作業無線部隊ノ居残り通信實施等ニシテ往々敵中ニ楔入シ或ハ其ノ襲撃ヲ受ケタル戦例ニテアリ之等ノ過失ハ實ニ各級指揮官ノ通信ニ關スル理解ノ十分ナラザルニ因ルモノニシテ深ク反省ヲ必要トスベク之ガ護衛ニ關シテハ常續的兵力ノ配屬ヲモ考慮スルノ必要アリ

2107